

## 平成29年度防災対策特別委員会県外視察の概要

### 1 参加委員

西沢貴朗(委員長), 中山俊雄(副委員長), 須見一仁, 喜多宏思, 岡本富治  
島田正人, 庄野昌彦, 長尾哲見

### 2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月21日(月)	国立研究開発法人 防災科学技術研究所(茨城県つくば市)
8月22日(火)	国土交通省関東地方整備局下館河川事務所鬼怒川緊急対策プロジェクト監督官詰所(茨城県常総市) 鬼怒川被災現場(茨城県常総市) 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター(東京都千代田区)
8月23日(水)	総務省消防庁消防研究センター(東京都調布市)

### 3 調査目的及び視察概要

#### (1) 国立研究開発法人防災科学技術研究所(茨城県つくば市)

##### (調査目的)

防災科学技術研究所は、防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発、それらに係る成果の普及及び活用の促進等の業務を総合的に行い「災害から人命を守り、災害の教訓を活かして発展を続ける災害に強い社会の実現を目指すこと」を目標としている。

地震・火災・気象・土砂災害等の防災上の社会的・政策的課題に関する総合的な研究開発に重点を置いており、平成28年4月からは南海トラフ周辺の深海底に設置している地震・津波観測監視システム「DONET」を国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)より移管され、運用を実施している。

また、平成28年7月には徳島県、徳島大学と自治体災害対応業務の高度化推進のための連携協定を締結し、災害情報利活用システム等の研究開発を進めている。

これらを踏まえ、次の内容について調査を行った。

- ①自治体等との連携事業について
- ②地震・津波観測監視システム「DONET」等の研究開発内容について
- ③施設見学 等

##### (視察概要)

地震時のリアルタイム被害想定システムや情報共有システムの概要と自治体等との連携について、地震・津波観測監視システム「DONET」をはじめとする地震・津波・火山観測網について説明を受けた後、地震・津波・火山観測網の観測データをリアルタイムで解析処理するデータセンターを見学した。



## (2) 関東地方整備局下館河川事務所・鬼怒川被災現場（茨城県常総市）

### (調査目的)

平成27年9月関東・東北豪雨により、観測史上最高の水位を記録する出水が生じ、鬼怒川下流域においては堤防決壊、溢水により甚大な被害が発生した。

鬼怒川では、避難の遅れ等による多数の孤立者が発生し、約4,300人が救助された。また、宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消するまでに10日を要したが、堤防決壊の当日から応急復旧に着手、その後もハード（堤防整備（かさ上げ、拡幅）、河道掘削）、ソフト（タイムラインの整備・訓練、広域避難の仕組みづくり等）の両面から対策が講じられている。

これらを踏まえ、次の内容について調査を行った。

- ①平成27年9月豪雨で被災した鬼怒川下流域の被災状況及び復旧状況
- ②被災時の対応、被災後の体制整備
- ③現地視察（平成27年鬼怒川被災現場） 等

### (視察概要)

平成27年9月豪雨で被災した鬼怒川下流域の被災状況及び復旧状況、被災時の対応、被災後の体制整備等について説明を受けた後、被災現場の堤防等の復旧の状況を見学した。



### (3) 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター（東京都千代田区）

#### （調査目的）

JAXAは、宇宙開発利用を技術で支える中核的实施機関であり、その一環として、衛星を利用した災害対策の研究・支援を行っている。

災害発生時は地球観測衛星「だいち2号」の観測データ、超高速インターネット衛星「きずな」による通信回路の提供を行う他、平常時も自治体等と連携し、防災訓練に併せて、「だいち2号」と「きずな」を使った防災利用実証実験を行うなどしている。

徳島県とも平成22年3月に衛星を用いた防災利用実証実験に関する協定を締結しており、平常時の衛星画像、だいち防災マップの提供、災害時の被害推定地域の解析結果の提供などを行っている。

これらを踏まえ、次の内容について調査を行った。

- ①自治体等との連携事業について
- ②衛星を利用した災害対策支援について 等

#### （視察概要）

「だいち2号」等のJAXA衛星を活用した災害時緊急観測やデータ提供等の防災利用実証活動の内容と、徳島県及びその他自治体等との連携事業について説明を受けた。



### (4) 消防庁消防研究センター（東京都調布市）

#### （調査目的）

消防研究センターは、総合的な消防防災研究機関であり、いざという時に役に立つ専門家集団として、消防防災に関する研究開発、火災・危険物流出事故の原因調査の実施と支援、大規模・特殊災害発生時の専門家集団としての消防活動支援等を行っている。

近年では、東日本大震災などの巨大地震発生時対策としての広域版地震被害想定システムの研究開発、多様化する火災に応じた安全確保の研究などを行う他、熊本地震における調査・支援も行っている。

#### （調査事項）

- ①消防防災に関する研究開発について
- ②大規模災害発生時の消防活動支援について
- ③施設見学 等

#### （視察概要）

東日本大震災における石油タンクの津波被害の調査結果についてや、消防防災に関する研究開発の内容、消防活動支援等について説明を受けた後、火災原因調査を行う鑑識室や水陸両用消防車両等を見学した。

